

第27回全国健康福祉祭とちぎ大会 ねんりんピック栃木2014 レポート

全国から約1万人の選手が集まり、宮城県からは強豪ぞろいの139人が22種目の競技に参加。世代や地域を超えて交流の絆を強めた大会の様子を紹介します。

いざ上野国・下野国栃木へ

県選手団は役員7人を含む総勢146人。総合開会式および卓球、テニス、剣道、将棋などの22種目の競技に参加するため、総合開会式前日の10月3日にJR仙台駅から栃木へ出発しました。

球場では、宇都宮市姿川第一小4年の13人が応援横断幕を掲げて出迎えてくれました。

熱した試合を展開した競技も多く、競技後は互いにねぎらい、絆を強める姿も見られました。

参加都道府県の選手を専属に応援する「ねんりん・とちまるキッズ」として、事前に宮城県の自然や文化・歴史などを学習した孫世代からの応援は、大変励みになりました。お礼に、鈴木隆一団長をはじめ選手から児童へプレゼントを手渡ししました。

宮城県チームはマラソン、なぎなた（演技競技）、ウォークラリー、グラウンド・ゴルフ、ダンススポーツ、ターゲット・パードゴルフ、囲碁、健康マージャンなどの種目で上位入賞を果たしました。

総合閉会式は栃木県総合文化センター（宇都宮市）で開催されました。触れ合いや交流を通じた思い出、ねんりんピックの意義をあらためて確認するにふさわしい式典でした。

栃木県総合運動公園陸上競技場（宇都宮市）で開催された総合開会式には、常陸宮同妃両殿下がご臨席されました。県選手団は横断幕を掲げて元気づけよう！と元気に入場行進。栃木県出身のガッツ石松さん親子による炬火（きよか）台への点火などで会場が盛り上がる中、選手団とボランティアの代表が健康長寿 とちぎ元気宣言を宣誓しました。

台風18号の影響で、大会初日から雨模様。屋外競技は次々と予定の変更や中止が発表され、悔し涙を浮かべる選手もいました。選手の思いが自然の力に勝てなかったのは残念でした。一方で、白

来年度の開催地は山口県です。大会旗が栃木県から山口県に手渡され、触れ合いの輪が引き継がれました。山口大会でも多くの人々との触れ合いにより、世代を超えた交流が芽生えることを期待し、絆を強めていきたいと思えます。

感動の総合閉会式
来年の舞台は山口県

上位入賞続出

悪天候でも入賞果たす

かわいい応援団と交流

開会式待機場の硬式野球

高年齢社会は確実に進んでいますが、最近のシニアは本当に若い。いつまでも元気に過ごすには、地域と関わり、生きがいを見つけるのが大切です。そういう意味でも、ねんりんピックをきっかけにスポーツや文化活動を楽しむのは意義のあることだと思っています。



▲総合開会式ではねんりん・とちまるキッズと一緒に入場行進

▶ねんりん・とちまるキッズから横断幕をもらった



▲団体が7位に入賞したダンススポーツ

▶演技競技で準優勝したなぎなた



▲4日間の祭典を振り返った総合閉会式



宮城県選手団団長
鈴木隆一さん
(県社会福祉協議会会長)

◆◆インタビュー◆◆

今のシニアは若く元気

今回の舞台は、仙台から新幹線で1時間と少しで着く栃木県でした。大会前日の10月3日に県選手団は日光市の鬼怒川温泉に宿泊。温泉や料理を楽しみながら、交流を深めました。夜の懇親会では種目ごとに意気込みを発表し、士気を高めました。

今大会は台風の接近が一番の不安材料でした。大会初日の総合開会式は何とか天気持ち、予定のプログラムが行われました。特に印象的だったのは流鏝馬（やぶさめ）です。その勇壮な技に、会場からは歓声が上がりました。地元の園児や児童による、かわいらしい踊りも注目を集めました。

悪天候でも入賞果たす

台風の影響で天候は徐々に悪化。交流大会は屋外種目を中心に、続々と中止が発表されました。この日のために準備をしてきた選手の皆さんにとっては非常に悔やまれる状況だったと思います。そのような中でも、幾つかの種目で個人・団体が入賞を果たしました。県選手団の最高齢選手は、ペタンクに出場した85歳の女性です。後から年齢を聞いて驚いたほど、はつらつとしたプレーが印象的でした。

高年齢社会は確実に進んでいますが、最近のシニアは本当に若い。いつまでも元気に過ごすには、地域と関わり、生きがいを見つけるのが大切です。そういう意味でも、ねんりんピックをきっかけにスポーツや文化活動を楽しむのは意義のあることだと思っています。